

TRANSED 2004 高齢者・障害者交通 / 地域交通のセミナー 21世紀型の地域バス交通マネジメント - 住民、行政、事業者による地域モビリティ確保の方策を探る -

日時：2004年5月24日(月) 13:00~16:00

場所：アクトシティ浜松・展示イベントホール内特設セミナー会場

このセミナーは、「高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議」第10回大会(TRANSED 2004)と併行して、IBSが主催して実施した国際セミナーである。

バス交通サービスは、高齢者や障害者等の移動制約者、そして市民の日常の足として重要な交通サービスである。しかし、平成14年2月の規制緩和により、バス事業の参入、撤退の仕組みが変わり、地域にとって望ましい水準にバス交通を維持、向上していくことが困難な状況が生じると想定される。

規制緩和後において地域のバス交通サービスを維持、向上させるためには、バスに関係する主体が、それぞれの役割を自覚、認識し、相互に協力して地域のバス交通をマネジメントしていくことが重要である。昨今は、我が国においてそのような取り組み事例が見られるようになってきている。

本セミナーでは、このような問題認識を踏まえ、地域のバス交通サービスを維持、向上させるためにバス関連主体が取り組んでいる国内外の事例を報告し、それぞれの工夫した点や、現行法制度上の問題・課題や、今後の展望、地域バス交通マネジメントのあり方、問題、課題について討議した。

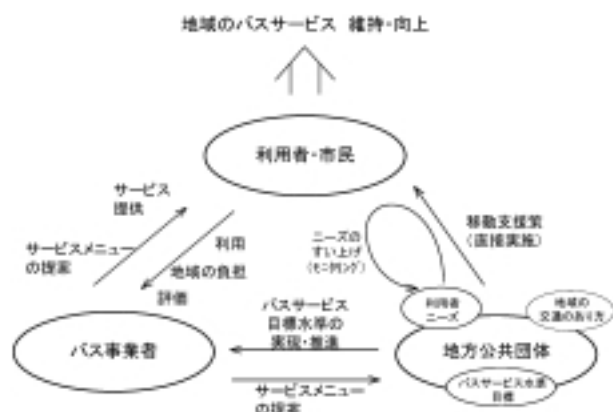


図-1 住民、事業者、行政の3者による地域モビリティ確保の枠組みのイメージ

表-1 セミナーの構成

基調講演

- 講演1: 「21世紀型の地域バス交通マネジメント」 中村文彦 (横浜国立大学大学院)
- 講演2: 「イエーテポリのフレックスバス」 イングヴェ・ヴェスタールト (ロジスティック ツェントルム)

パネル討論

- 発表1: 「地域交通の主体は誰か~協働の時代の市民参加の視点から」 中谷英世 (青葉区民会議広報委員長)
- 発表2: 「地域に根ざしたNPOが住民の求めるバス路線を実現」 西脇良孝 (NPO法人生活バス四日市理事長)
- 発表3: 「市民との協働によるゾーンバスシステムの導入 - 盛岡市オムニバスタウン計画」 泉山良男 (盛岡市企画部長)
- 発表4: 「おでかけ交通による地域交通の確保 ~北九州市における取り組み~」 東 義浩 (北九州市都市交通政策課係長)
- 総合ディスカッション
- 司会進行: 中村文彦 (横浜国立大学大学院)
- コメンテーター: 加藤博和 (名古屋大学大学院)



図-2 セミナー開催当日の様子

(交通政策研究室 高橋勝美、事務局企画課 谷貝等)